



大妻多摩中学校

二〇一九(平成31)年度

入学試験問題(第三回)

【国語】

時間 50分

2月4日(月)

【注意事項】

- 1 問題は15ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、問題文には一部省略した箇所があります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

人口が男女ほぼ半々であることを考えると、議会も男女同数であっておかしくないはずだが、実際には女性は圧倒的に少ない。国政レベルの女性議員比率は世界平均で23.3%であり、半数には達していない。日本の現状はさらにひどく、衆議院では9.3%で193カ国中164位だ。参議院は20.7%を超え世界平均に近づいている。(列国議会同盟、2017年3月現在、<http://www.ipu.org/wmn-e/world.htm>)。女性議員が少ない理由について、世界に共通する要因と日本の特殊な要因に分けて見ていこう。

世界的に見て、政治分野に女性が少ない最大の要因の1つは性別役割分業にある。男性が外の仕事、女性が内の仕事を担うべきであるとする性別役割分業の下では、女性は男性の仕事である政治に進出しにくい。

大きな問題として時間の制約がある。政治家という職業は長時間労働で休日もなく、スケジュールも①だ。家族の責任と両立させることが難しいという特質を持っている。実際に女性政治家は男性政治家と比べて、独身や子どもがいない割合が多い。さらに家族は政治家にとって選挙活動を手伝ってくれる資源であるが、女性の場合は夫にはあまり期待できない。②、家族の責任を担うだけでなく家族を頼りにすることもできないのが多くの女性が置かれた状況なのだ。

女性議員を増やすための注¹ クオータなどの特別措置^{そち}の話になると、女性にだけ③下駄^{げた}を履^はかせるのはおかしいという反論が出てくることがあるが、実際は男性が家族という下駄を履いているのが現状だ。このことは、男性でも家族の責任を担い、また家族に頼ることのできない人は政治家になりにくいことを意味する。

政治が男性の仕事であるという実態と通念は、有権者にも広く共有されている。そのため女性候補者に対して、子どもがいなければ「早く産め」といったセクハラ発言をしたり、逆に小さな子どもを抱^かえていると政治活動^{おんそく}が疎^{おろそ}かになると批判したりすることも珍^{めず}ら

しくない。男性候補者の家族状況には誰も関心を持たないが、女性候補者はつねに家族のことを聞かれ、どのような状況であっても批判を受けるのである。

④ の価値観を持つ有権者にとって、女性政治家や女性リーダーは受け入れ難く、時には攻撃的行動にさえ出ることもある。国会議員の辻元清美は数々のデマを流されたり、演説中に暴漢に襲われたりしてきた。野田聖子もセクハラの被害にあってきたことを語っている。もともと、女性政治家に対する暴力は実は日本ではまだマシな方とさえ言えるかもしれない。⑤ 日本でも女性議員が増えてきたら、もっと大きな反動と攻撃が出てくると予想した方がいいだろう。

注2 ステレオタイプの弊害にも触れたい。どの分野であれ男性がリーダーを務めることが多いため、私たちのリーダー像は男性的特質と混同しがちである。強い統率力や交渉力、攻撃力をよきリーダーと認識しがちなため、女性リーダーにも ⑥ こうした男性性が求められるが、他方で男性的になりすぎると女性としては冷たいと批判されることになる。「鉄の女」という表現がそれである。ヒラリー・クリントンも「嫌われている」とメディアによく書かれていた。女性リーダーは一般的に、能力があると思われることと好かれることを両立させることが難しい。男性的でなければ能力があるとみなされず、しかしながら男性的であると嫌われるのである。男性リーダーは男性性を突き詰めるだけで済むが、女性リーダーはこうした ⑦ 「二重の拘束」に晒されるのである。

政治家には少なからず「野心」が必要だが、女性には野心が足りないため政治家のなり手が少ないという議論がある。男性が野心的であることは好意的に評価されるが、「野心的な女性」というのはどこか否定的な響きがある。同じ「野心的」という特性も、男性にはプラス、女性にはマイナスとなるのは、⑧ 社会における男らしさ、女らしさのステレオタイプが作用を及ぼすからである。

また、能力評価の際に潜む「外集団効果」も重要である。これは、自分と同じだと思える「内集団」には評価が甘くなり、自分とは異なる「外集団」には厳しくなるという心理作用である。政治が長い間、男性の世界であったことから、ここに女性が入ってくると「⑨」としてみなされることになる。女性政治家が失敗すると「それみたことか」と過度に取り沙汰されるのは、「外集団効果」が影響しているからである。

女性を阻む壁^{はば}としては、^{注3} インフォーマルな権力構造も重要だ。権利という意味では男女同権であるにもかかわらず、女性が政治の中に入っていけないのは、結果的に女性を排除するメカニズムが存在するからである。

同性同士の付き合いを「ホモソーシャル・ネットワーク」と呼ぶが、政治が男性の世界であるために、ホモソーシャル・ネットワークが高度に発達し、その中で重要な情報交換や意思決定が行われている。意思決定が不透明であるほどインフォーマルな付き合いの比重が増し、ホモソーシャル・ネットワークが発達してしまうのである。

重要なことは夜の酒席^{しゅせき}で決まると言われたりするが、こうした慣行^{かんこう}もホモソーシャル・ネットワークの存在を裏付けるもので、結果的に女性を排除することになる。正式な統計はないが、女性議員をインタビューして気づくのは、お酒に強い女性が多いことだ。男性世界に立ち入るために酒席を遠慮するわけにはいかず、自己選別の結果、お酒に強い女性が生き残っているのかもしれない。

意思決定が透明化されると、インフォーマルな付き合いの中で情報を仕入れることの重要性が下がるため、ホモソーシャル・ネットワークの^{注4} 有用性も減る。女性議員の少なさは、裏を返せば意思決定が不透明であることを意味する。利権誘導やボス政治もまた、女性の政治参画を阻んでいるのである。

(三浦まり「女性の政治参画を阻むもの」『考える主権者をめざす情報誌 Voters NO.38』(公益財団法人明るい選挙推進協会)

注1 クオータ……政治における男女平等を実現するために、議員・閣僚などの一定数を女性に割り当てる制度。北欧諸国などで、法制化して実施されている。

注2 ステレオタイプ……行動や考え方が、固定的・画一的であり、新鮮味のないこと。紋切型。

注3 インフォーマル……公式でないさま。

注4 有用性……役に立つこと。また、そのさま。

問1 ① に入れるのに最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 安定的 イ 固定的 ウ 流動的 エ 画期的

問2 ② に入れるのに最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア しかし イ その上 ウ なぜなら エ つまり

問3 線部③ 「下駄を履かせる」とありますが、ここではどういう意味ですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 実際よりも上乘せる
イ 個別的な対応をさせる
ウ すべてをおまかせする
エ 相手に責任を持たせる

問4 ④ に入れるのに最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 一喜一憂 イ 男尊女卑だんそんじよひ ウ 一石二鳥 エ 支離滅裂しりめつれつ

問5 線部⑤ 「日本でも女性議員が増えてきたら、もつと大きな反動と攻撃が出てくると予想した方がいいだろう」とありますが、この筆者の意見について、あなたは賛成ですか、それとも、反対ですか。賛成か反対かを明記し、その理由とともに、百字以内で答えなさい。

問 6 ———線部⑥「こうした男性性」が指し示す内容を、本文中から十三字で抜き出して答えなさい。

問 7 ———線部⑦「二重の拘束」とありますが、それはどのようなことですか。本文中の語句を使って、四十字以内で答えなさい。

問 8 ———線部⑧「社会における男らしさ、女らしさ」とありますが、このことを意味する言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア ジェンダー イ プロフィール ウ サービス エ アピール

問 9 ⑨に入れるのに最も適切な言葉を、本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問 10 次の各文について、本文の内容に合致するものには○、合致しないものには×で、それぞれ答えなさい。

- (1) 日本において、国政レベルの女性議員比率は、衆議院の方が参議院よりも世界平均に近い。
- (2) 政治が男性の仕事であるという実態と通念があるため、女性立候補者は常に批判を受ける。
- (3) 女性には野心が足りないため、それがマイナス評価となり、政治家のなり手が少なくなる。
- (4) 意思決定の不透明さが増すのに応じて、ホモソーシャル・ネットワークが発達してしまう。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしております。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

太平洋戦争も終わりに近づいたころ、文学書の編集者の久子には、四十五歳になる翻訳書の編集者の夫がいたが、その夫に兵役を知らせる赤紙が届いた。彼女は千人針を縫ってもらったために新宿の街頭へやって来た。千人針とは女性たちが一枚の布に赤い糸を縫い付けて結び目を作り、兵士の戦場での幸運を祈るならわしである。

見知らぬ女たちの指が、晒木綿さらしもめんの上に赤い糸を縫い留めてゆく。

老婆も女学生も、一針を運んでから前歯で糸を切る動作は職人のように手慣れていた。久子の呼びかけを拒む者はなく、よほど道を急ぐ人はいかにも申しわけなきげに、「あいすいません」と頭を下げて行き過ぎた。

きのうまでの自分は、この人たちほど誠実ではなかったと、久子は悔やんだ。新宿追分の伊勢丹の角には、いつも千人針を求める女たちが立っているのを知っていたから、時にはあらかじめ通りを渡って避けることもあった。

A

面倒だからではなく、そのならわしに加わることが嫌だった。男たちはみな戦っているが、女にはこんなことしかできないのだと言っているようで、^①真心まごころという正体のない感情を縫い留めることができなかった。男も女も同じ能力を持っていると信じる久子にとって、それは我慢のならぬならわしだった。

「ありがとうございます」

「お粗末さまでした。大変でしょうけど、しつかりなすつてね」

晒木綿とともに戻されるねぎらいの声は、けっして^②おぎなりではなかった。言葉をかけぬ人は、やさしいまなざしで久子をいたわってくれた。

「私、寅とらですから」

まだ首の据わらぬ赤ん坊を背負った若い女が、にっこりと笑いかけて針と布を手を取った。一人が一針を縫う千人針だが、寅年生まれの女に限っては本人の齡の数だけ針を運んでいいらしい。③ 言い出さねばわからぬことなのにとせば、若い母親の真心が身に見えた。

「大正十五年の寅なんです。だから、町に出ると忙しくって」

女は一針ずつ、ていねいに赤い糸を玉に留めてくれた。大正十五年は昭和元年だから、年齢はわかりやすい。

「おまけに、母は明治三十五年の寅なんです。だから私は二十針でいいんですけど、母は四十四針も縫わなくちゃならないの」

久子は手を伸ばして、首を倒したまま眠っている赤ん坊の頭を支えた。女の母親という人は、久子より三つだけ齡上だ。早くに結婚していれば、自分にもこれくらいの娘がいて、孫もいたところでふしぎはないのだと思った。

B

夏の陽は追分の街路を灼いていたが、十字路に向いた建物の優雅な曲線を巻いて、涼やかな風が吹き下ろしていた。

「注1 姑ですけど」

針を運びながら、若い母はぼつりと言った。久子の頭の中につき抜けた不吉な予測を、女はそのまま口にした。

「主人が 注2 出征しているんです。だから私も義母も、なまけていられません」

虎は日に千里を歩き、千里を帰るといふ。寅年の女が齡の数だけ千人針を縫うことのできる理由は、その言い伝えにちなむのである。夫や子供がお国のために名譽の戦死をすることなど、誰も希っているはずはなかった。

「注3 応召は、息子さんですか」

ちらりと久子の顔を見て、若い母は訊ねた。

「いえ、夫ですの」

④ 恥じ入りながらそう答えた。齡よりは若く見える自信はあるが、この若い女の目にはやはり齡なりに映るのだろうか。

「あら、ごめんなさい」

「いいんですよ。とてもお国のために働ける齡じゃないんですけど、赤紙が来ちゃったんです」

せめて口紅くらいさしてくればよかったと、久子は後悔した。するべきことはほかにいくらでもあるだろうに、ともかく千人針と考えたのはどうしたことなのだろう。思いついたとたん、^{注4} 矢も櫛もたまらずにアパートメントを飛び出した。

正しくは、何も考えることができなかつた。電報を受け取り、夫の会社に電話を入れたあと、頭の中がからっぽになってしまった。気が付けば伊勢丹の玄関脇で、同じ身の上の女たちに並んで立っていた。

若い母親の手元を見つめながら、久子は少しずつ自分を取り戻した。⁵ この土俗的とも言えるならわしをあれほど蔑んでいたのに、とっさに押入れや筆筒たんすの中をかき回して、晒木綿を探したのはなぜだろう。

妻としてなすべきことよりも、自分が夫にしてあげられることを考えたからだだった。だがじきに、軍隊が希ぞんでいるものは夫の体だけだと気付いた。出征には会社の出張のような旅仕度たびじたくは必要なかつた。つまり何かをしてあげようにも、出征兵士を送る妻には無事を祈るほかにできることはなく、その祈りの具体が千人針というならわしなのだった。

千人針に使う布が、ちょうど手拭てぬぐいを縦に折った大きさであることは知っていたが、何枚重ねたものか、また腹巻にするための紐ひもがどんな具合であつたかは見当がつかなかつた。いつそ出来合いの布を買つたほうが早かろうと思ひ直し、赤い糸と針だけを持つて家を出た。

飯田橋の駅近くの商店で、腹巻の形に縫い上がった布を買つたはよいものの、知つた人に会う駅頭に立つ勇氣はなく、^{注5} 乗つて新宿に出た。その間も頭の中はからっぽだった。省線しょうせんに

手順をたがえていることはわかつていた。まずご近所やアパートメントの自治会に伝え、夫の知人に連絡を取らねばならないのだろうが、ともかく一刻も早く人通りの多い街頭に立つて千人針を仕上げようと、そればかりを考え続けていた。

身なりは半袖のシャツにもんぺをはいただけの普段着で、素足に草履をつつけていた。新宿駅にも千人針を求める女たちの姿があつたが、電車通りを追分まで歩いて、伊勢丹の角に立つた。みちみち気持ちを鎮しずめなければ、声を上げて人を呼び止めることなどできるはずはなかつた。

新宿も五月の空襲でずいぶん焼けたが、それでも直撃弾を落とされて廃墟はいきよとなつた銀座よりはよほだまじだつた。伊勢丹の壁も焼

「夷弾の飛び火の焦げ跡があるだけで、建物はしっかりとしていた。」

「お住まいはどちらですか」

と、久子はいねいに玉を結び留める若い母親に訊ねた。夫が軍隊に取られたあと、どんな暮らしをしているのかが知りたかった。

C

「京王電車の調布です」

「ああ、それでしたらご心配はないわね」

「いえ、近くには飛行場も工場もありますから、うっかりできないんです」

それから母親は⑥問わず語りに、四谷大木戸の実家が焼けてしまったこと、両親も兄夫婦も行方しれずであることを、まるで他人事のように淡々と話した。大きな前歯の剃き出た笑顔は、どうやら生まれつきの地顔であるらしい。陽に灼けた肌も、小柄だが潑刺とした体も、悲しみを感じさせなかった。

「京王新宿の駅からは歩いてもわけはないんですけど、陸橋を電車が登れなくなっちゃって」

そんなこともさして苦勞ではないというふうに、女は笑いながら言った。

京王電車は新宿追分まで乗り入れていたのだが、五月の空襲で変電所が爆撃を受けたために、電圧が下がって甲州街道の⑦跨線橋を登れなくなった。西口に近い仮設駅が終点になっているという。

「ご心配でしょうけど、あまり出でたらっしゃらないほうがいいわよ。赤ちゃんもこの陽ざかりじゃ——」

そこまで言いかけて、久子は口を噤んだ。千人針の上に女の涙が滴り落ちた。

女は黙りこくって二十の齢の数を縫い上げてから、明るい笑顔をもたげた。

「主人の千人針は黄色だったんです。やっぱり白いほうがいいですね。みなさん白だから、黄色のほうが生きて帰ってこられるよう
な気がしたんですけど」

千人針の布はあらかたが白い木綿だったが、まれに黄色のものもあった。そのほかの色は見たためしがない。数少ない黄色の布に

どんな意味があるのかは知らなかった。

夫が出征するとき、この若い母親は黄色い布を抱いて新宿の街頭に立ったのだろう。お腹は大きかったにちがいない。もしかしたら自分は、そのとき避けて通ったのではなからうかと久子は思った。

「^⑧ごめんなさい。私、どうかしてました」

悔悟が声になって、久子は女に詫びた。

「あら、どうなすったんですか」

答えることはできなかった。たしかに女は無力だけれども、その無力な女たちが街頭で針を運ぶ真心を、自分は蔑んでいた。学問をどう修めようが、どれほどの文学書を世に送り出そうが、しよせん自分も無力な女のひとりなのだと、久子は思い知った。

「主人はもう四十五なんです。万年筆より重いものなんて持ったこともない人で、ひどい近眼だし」

のしかかった現実がようやく細い声になった。応召が何かのまちがいでないのなら、夫は万に一つも生きては帰れまいと思った。不安が予感になり、とうとう ^⑨ になってしまった。

「大丈夫ですよ。そんなお齡なら、きつと外地になんか行きやしません」

若い母親は笑顔とともに千人針を久子の手に返し、目覚めて泣き出した赤ん坊をあやししながら午後の街角に消えてしまった。

D

(浅田次郎『終わらざる夏』(集英社))

注1 姑……夫の母。

注2 出征……軍隊の一員として戦場へ行くこと。

注3 応召……召集に応じて軍隊に入ること。

注4 矢も楯もたまらずに……じつとしていられずに。

注5 省線……昔、大都市周辺を走った、現在のJ Rに相当する電車のこと。

注6 跨線橋……鉄道線路をまたぐ橋。

問1 ——線部①「真心という正体のない感情を縫い留めることができなかつた」とありますが、それはどういうことですか。その

説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 心という目に見えないものを縫い付けることなど現実的には無理だということ。

イ 自分に真心があるのかないのか分からない状態で縫い物はできないということ。

ウ 他人のことにはまったく関心がないが、つきあいではかたなく縫い物をするということ。

エ 心のこもっていない、形だけの縫い物をするなどできなかつたということ。

問2 ——線部②「おざなり」・⑥「問わず語り」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、そ

の記号を答えなさい。

② 「おざなり」

ア いい加減で何もしないこと

イ その場だけ間にあわせること

ウ 心がこもっていないこと

エ その時にふさわしいこと

⑥ 「問わず語り」

- ア 尋ねられていないのに自分から話し出すこと
- イ 質問を受け付けずに一方的に話をする事
- ウ 質問が出ないくらい丁寧ていねいに解説をすること
- エ 自分のことではないかのように話をする事

問3

——線部③「言い出さねばわからぬことなのにと思えば、若い母親の真心が身にしみた」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 寅年だということをわざわざ言わなければ一針縫うだけで済むのに、あえて寅年だと告げて年齢の数だけ縫い、少しでもはやく千人針を完成させられるようにという若い母親の優しさがうれしかったということ。
- イ 生まれた年を言わなければ自分の年齢が相手に知られることもないのに、あえて自分の年齢を告げることによって、年下の女性になら千人針を頼みやすいだろうという若い母親の気づかいがうれしかったということ。
- ウ 夫のために千人針を縫ってもらおうとして街頭に立っていることなど久子が言わなければ分からないはずなのに、それを察して自分からさりげなく声をかけてくれた若い母親の配慮がうれしかったということ。
- エ 寅年生まれの女に限っては年齢の数だけ針を運ぶことができるというきまりなど言われなければ分からないことなのに、初めて千人針を縫う久子に丁寧に教えてくれた若い母親の熱意がうれしかったということ。

問4 ———線部④「恥じ入りながら」とありますが、久子が恥ずかしく思ったのはなぜですか。その理由として適切でないものを、

次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 久子は本来なら子供や孫がいてもよいはずの年齢になっていたから。

イ 久子の夫は戦争も終わりに近づいた時期にようやく出征することになったから。

ウ 久子は年齢を重ねてはいるものの、まだ子供がいなかったから。

エ 久子は自分が戦場に行くことを願いながらも、そうできないことを気にしていたから。

問5 ———線部⑤「この土俗的どぶくちとも言えるならわしをあれほど蔑あやんでいた」とありますが、久子がこのならわしを軽蔑けいべつしていた理由

とはどのようなものですか。百字以内で答えなさい。

問6 ⑦ に入れるのに最も適切な一文を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 出征した夫は、おそらくもう戦地で亡くなっているのだろう。

イ 背負われた赤ん坊は、泣き疲れて寝ているのだろう。

ウ 出征した夫は、たぶん子供の顔を知らないのだろう。

エ この若い女は、外出するのが何よりも好きなのだろう。

問7 ———線部⑧「ごめんなさい。私、どうかしてました」とありますが、この言葉はどのようなことに対して出てきた言葉ですか。

解答欄の「こと」につながるように最も適切な部分を、本文中より二十六字で抜き出し、その最初と最後の五字を答えなさい。

問8 ⑨に入れる言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 理想 イ 確信 ウ 推測 エ 期待

問9 本文には、次の一文が抜けています。この一文を入れるのに最も適切な箇所を、本文中の A B C D の中から一つ選び、その記号を答えなさい。

それはわずか五日後の自分の姿だった。

三

次の各問いに答えなさい。

問1 次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に改めなさい。

- ① 彼女の引退はみんなにとってシヨウゲキだった。
- ② 節電がカイジヨされて町が明るくなった。
- ③ 体育祭のやり方について新しいテイアンをする。
- ④ 両国が互いにゴウイできる点を見つける。
- ⑤ 今の成績をイジできるように努力する。

問2 次の文の中から間違っている漢字を例にならって抜き出し、正しい漢字を答えなさい。

例：東京オリ**ン**ピック開祭**ま**であと2年**と**な**つ**た。

誤 祭 ↓ **正** 催

- ① 産休から復起して職場に戻る。
- ② 今日の朝礼は溝堂で行われること**な**つた。
- ③ 選挙の投票に行く。
- ④ 大雨警法が出たので、外出を**や**める。
- ⑤ 人と人との縁を大切**に**しよう。

以下余白

